

特集2 便秘症の原因を探る



かとう ともひろ

加藤 智弘

東京慈恵会医科大学 内視鏡医学講座 教授

要旨

機能性便秘症の病態を生理学的観点から概説した。便通は、①便塊水分量の調整、②小腸～結腸の運動機能、③直腸～肛門機能の3要素が相互に調節して成立する。水分動態はクロライドチャンネルを介した分泌機構により制御され、通過時間の延長は水分吸収亢進を介して硬便化をもたらす。結腸では高振幅伝播性収縮が排便に重要であり、その低下は通過遅延型便秘に関与する。さらに、直腸肛門の協調運動障害は、便排出障害型便秘の本態である。加えて、腸内細菌叢も消化管運動や分泌に影響を与える可能性が示唆されている。便秘症はこれら多因子の相互作用により成立するため、個別の病態評価を把握して個別化診療につなげることが重要である。

キーワード

機能性便秘症, 水分吸収と分泌, 消化管運動, 直腸肛門機能, 腸内細菌叢